

「九州・沖縄」など6地域で改善～リスク要因を注視も、AI関連・インバウンドに期待

2026年1月 大和地域AI（地域愛）インデックス

| | | |
|-------|-------|-------|
| 経済調査部 | 主任研究員 | 溝端 幹雄 |
| | 主任研究員 | 田邊 美穂 |
| | 研究員 | 高須 百華 |

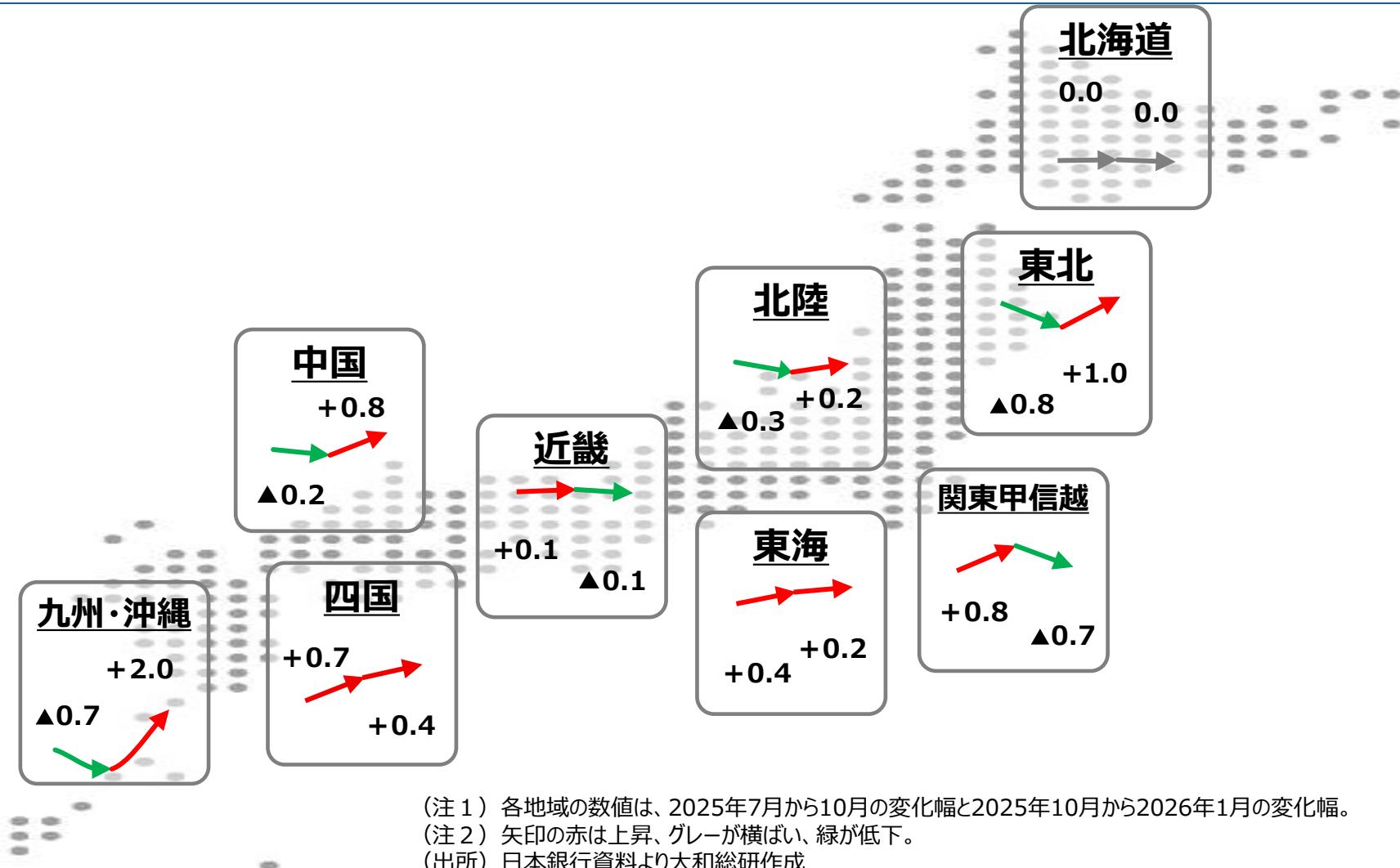
[要約]

- 2026年1月の大和地域AI（地域愛）インデックスは、「九州・沖縄」「東北」など6地域で改善、「関東甲信越」「近畿」で悪化し、「北海道」では横ばいだった。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「北海道」「九州・沖縄」「北陸」などで改善した。「北海道」は観光などが改善、国内観光客やインバウンド客の需要が引き続き堅調で、中国人観光客の予約キャンセルの影響は今のところ限定的だ。「北陸」は一部OSのサポート終了等を受けて家電販売が改善した。「九州・沖縄」は株高の効果もあり百貨店で富裕層による高額消費が堅調だ。一方、全国的に物価高による買い控えの声も聞かれる。住宅投資は「北陸」で建築基準法改正の影響で悪化しており、住宅価格上昇や金利先高観も懸念される。雇用・所得環境は前回から大きな変化はなかったが、全国的に賃上げの傾向は続いている。企業関連では、企業マインドが「東北」「北海道」「九州・沖縄」など多くの地域で改善した。特に「東北」は化学や対事業所サービス、「北海道」は食料品、「九州・沖縄」は鉄鋼などで企業マインドの改善が顕著だ。設備投資も「北陸」で改善しており、能力増強投資や新規事業向けの投資、人手不足対応の省力化投資が増加している。一方、生産や輸出については、地域によってばらつきが見られる。生産は「四国」で輸送機械や紙・パルプ、データセンターへの投資拡大の影響を受けて汎用・生産用機械が改善した。しかし、「北海道」で輸送機械や一時的に減産した鉄鋼が悪化、「関東甲信越」でも輸送機械の生産が悪化した。輸出は米国の通商政策の影響は限定的で、「中国」で自動車関連、「九州・沖縄」で電気機械が改善したが、「関東甲信越」で中国向けの一部の輸出が悪化した。
- 全国的に見ると、日本経済は緩やかな回復基調にある。特に観光、飲食、宿泊などが堅調に推移しており、生成AI関連やデータセンター向けの旺盛な需要に加え、通商政策の影響は限定的なことから、企業マインド、生産、設備投資は改善しつつある。一方、物価高や金利先高観が消費や住宅投資を抑制するリスクもある。今後は、海外経済や物価高などのリスク要因を引き続き注視しつつも、AI・デジタル投資による成長の牽引や、人手不足を背景とした賃上げと省人化投資の両立、株価上昇による富裕層の堅調な消費、インバウンド需要が、地域経済の回復を支え続けるものと期待される。

※本レポート作成にあたって、大和地域AI（地域愛）インデックスのモデル開発は、デジタルソリューション研究開発部データアナリティクスグループが担当している。

※本レポートの文章はGPT-4oベースのChatGPTが出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (25年7月→10月、25年10月→26年1月)



ヒートマップ：大和地域AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度 (25年10月→26年1月)

| | 地域AI | 需要項目 | | | | 生産 | 企業 マインド |
|-------|------|------|------|------|----|----|------------|
| | | 消費 | 住宅投資 | 設備投資 | 輸出 | | |
| 北海道 | 0.0 | ■ | | | | ■ | ■ |
| 東北 | +1.0 | | | | | ■ | ■ |
| 北陸 | +0.2 | ■ | | ■ | | | |
| 関東甲信越 | ▲0.7 | | | | | ■ | ■ |
| 東海 | +0.2 | ■ | | | | | |
| 近畿 | ▲0.1 | | | | | | |
| 中国 | +0.8 | | | | ■ | ■ | ■ |
| 四国 | +0.4 | | | | | ■ | |
| 九州・沖縄 | +2.0 | ■ | ■ | | ■ | | ■ |

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

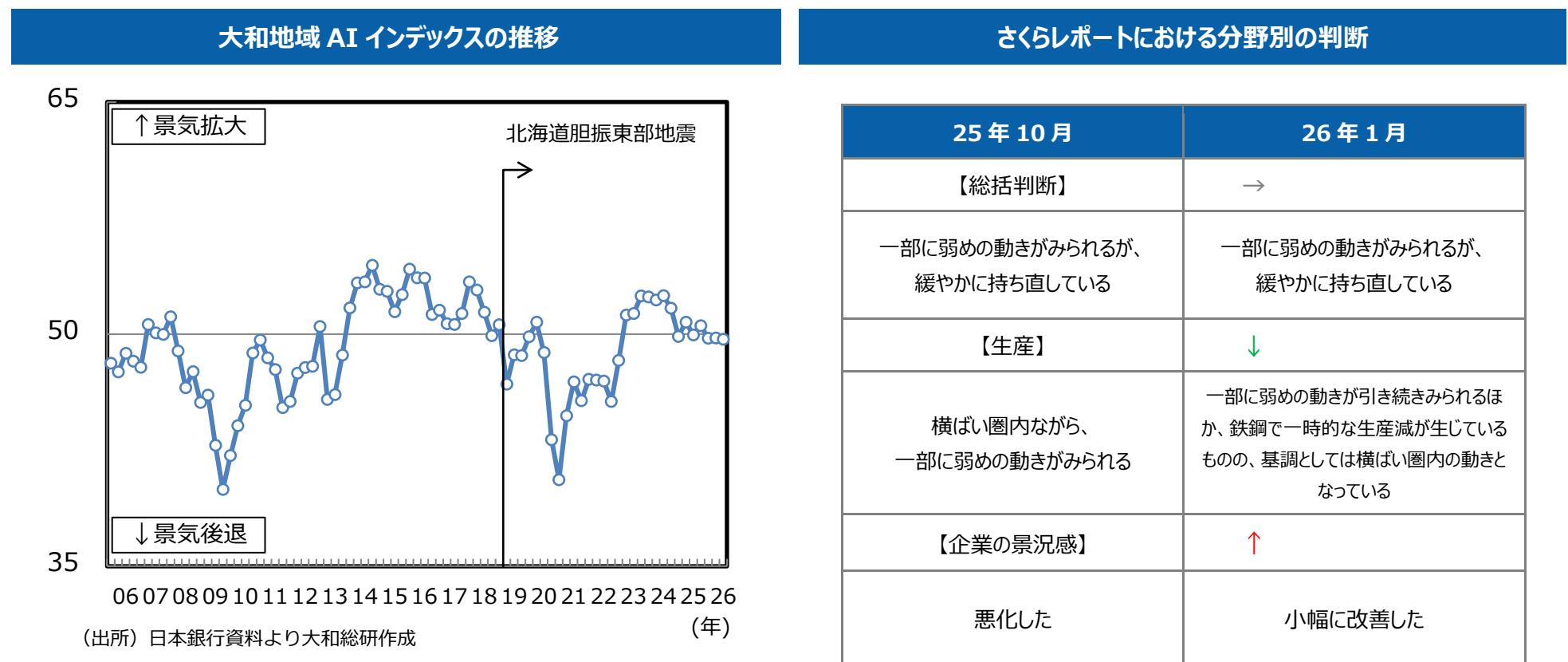
(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化（25年10月→26年1月）とポイント

| | |
|-----------|--|
| 北海道 | 大和地域AIインデックスは、前期から横ばいであった(25年10月:49.7→26年1月:49.7)。生産が悪化したものの、企業マインドや消費が改善したため、インデックスは横ばいだった。 |
| 東北 | 大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに上昇した(25年10月:51.4→26年1月:52.4)。企業マインドなどの改善がインデックスを押し上げた。 |
| 北陸 | 大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに上昇した(25年10月:50.8→26年1月:51.0)。住宅投資などが悪化したものの、消費や設備投資が改善したため、インデックスはわずかに上昇した。 |
| 関東 甲信越 | 大和地域AIインデックスは、2四半期ぶりに下落した(25年10月:53.6→26年1月:52.9)。企業マインドが改善した一方で、生産や輸出の悪化がインデックスを押し下げた。 |
| 東海 | 大和地域AIインデックスは、2四半期連続で上昇した(25年10月:55.9→26年1月:56.1)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなつたこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。 |
| 近畿 | 大和地域AIインデックスは、3四半期ぶりに下落した(25年10月:53.0→26年1月:52.9)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなつたこともあり、インデックスはわずかな低下にとどまった。 |
| 中国 | 大和地域AIインデックスは、4四半期ぶりに上昇した(25年10月:50.7→26年1月:51.5)。生産が悪化したものの、企業マインドや輸出などの改善がインデックスを押し上げた。 |
| 四国 | 大和地域AIインデックスは、4四半期連続で上昇した(25年10月:51.2→26年1月:51.6)。生産の改善がインデックスを押し上げた。 |
| 九州・ 沖縄 | 大和地域AIインデックスは、3四半期ぶりに上昇した(25年10月:50.1→26年1月:52.1)。企業マインドや消費、輸出などの改善を受けてインデックスは上昇した。 |

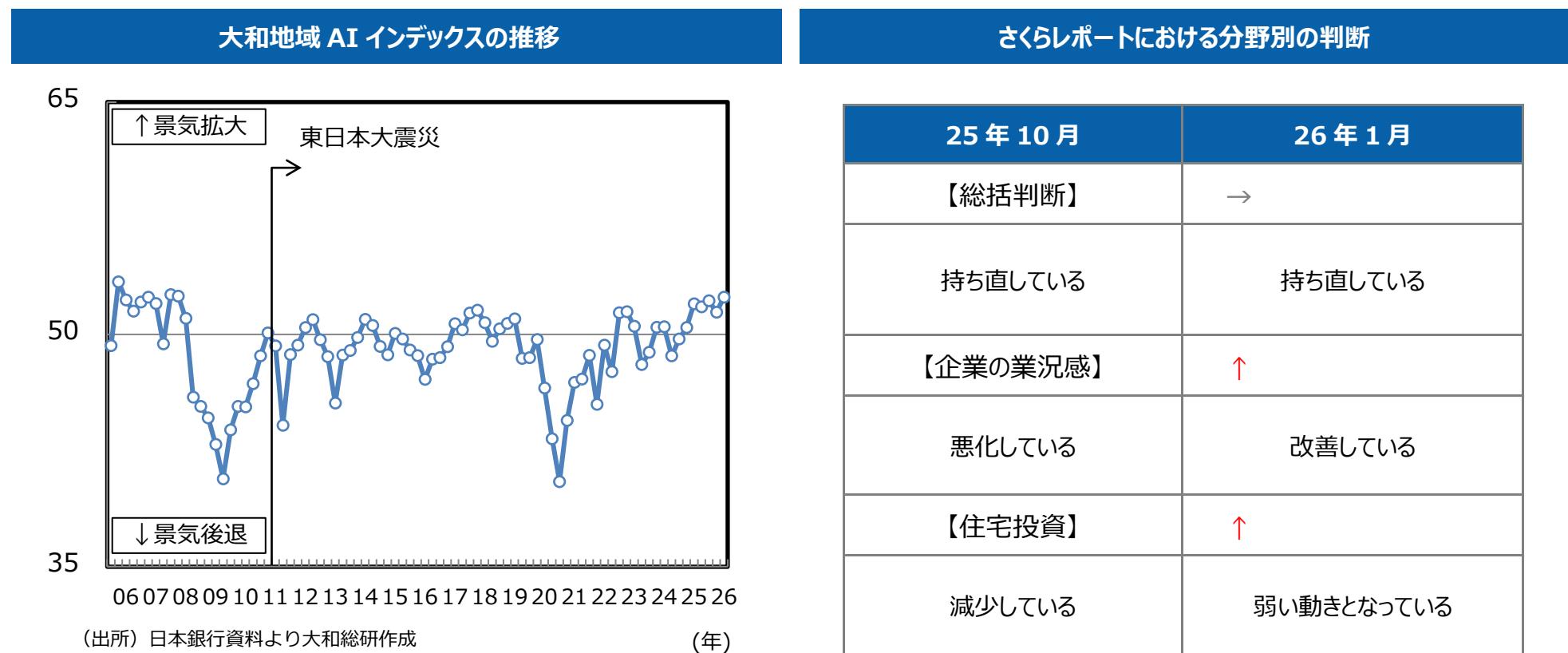
北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(25年10月:49.7→26年1月:49.7)。
- 生産が悪化したものの、企業マインドや消費が改善したため、インデックスは横ばいだった。
- 生産は輸送機械や一時的に減産した鉄鋼で悪化。一方、企業マインドは食料品などで改善が見られるほか、消費は国内観光客やインバウンド客の需要が引き続き堅調で、中国人観光客の予約キャンセルの影響は今のところ限定的で、観光などで改善。



東北経済の動向

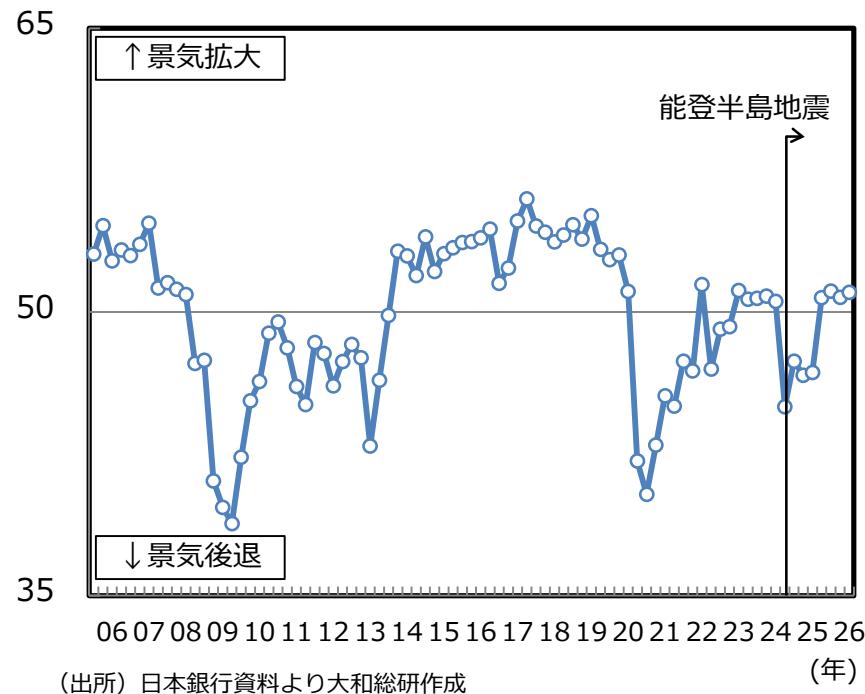
- 大和地域 AI インデックスは、2四半期ぶりに上昇した(25年10月:51.4→26年1月:52.4)。
- 企業マインドなどの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは化学や対事業所サービスなどで改善が見られる。住宅投資も2025年4月の建築基準法改正前に見られた駆け込み需要の反動減が一巡しつつあり、わずかながら改善。結果、インデックスは東日本大震災以降で最も高い水準となった。



北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2四半期ぶりに上昇した(25年10月:50.8→26年1月:51.0)。
- 住宅投資などが悪化したものの、消費や設備投資が改善したため、インデックスはわずかに上昇した。
- 消費は一部 OS のサポート終了等を受けて家電販売が改善した。設備投資も能力増強投資や新規事業向けの投資、人手不足対応の省力化投資が増加している。一方、住宅投資は建築基準法改正の影響で悪化しており、今後は住宅価格上昇や金利先高観の強まりも懸念される。

大和地域 AI インデックスの推移

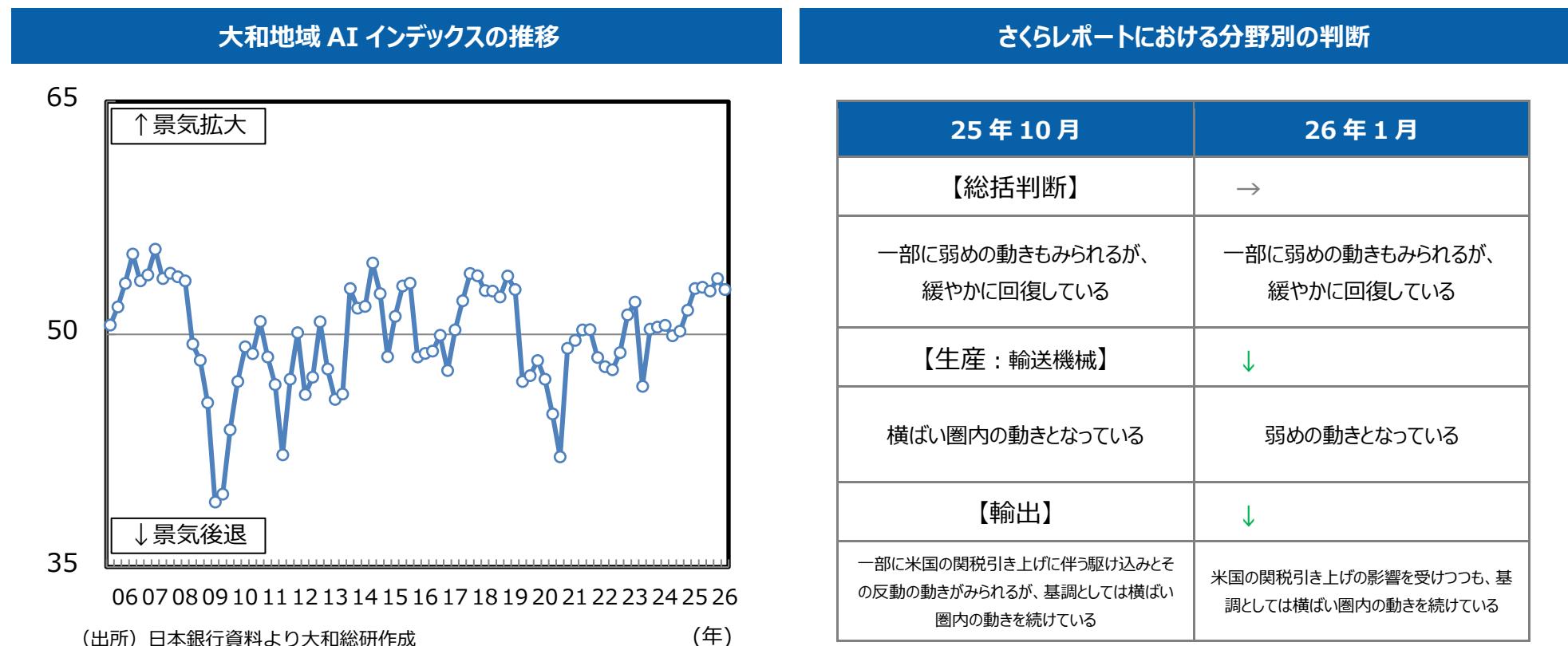


さくらレポートにおける分野別の判断

| 25年10月 | 26年1月 |
|---------------------------|---------------------------|
| 【総括判断】 | → |
| 一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している | 一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している |
| 【消費：家電販売】 | ↑ |
| 横ばい圏内の動きとなっている | 持ち直しつつある |
| 【住宅投資】 | ↓ |
| 基調としては緩やかに持ち直している | 持ち直しの動きが一服している |

関東甲信越経済の動向

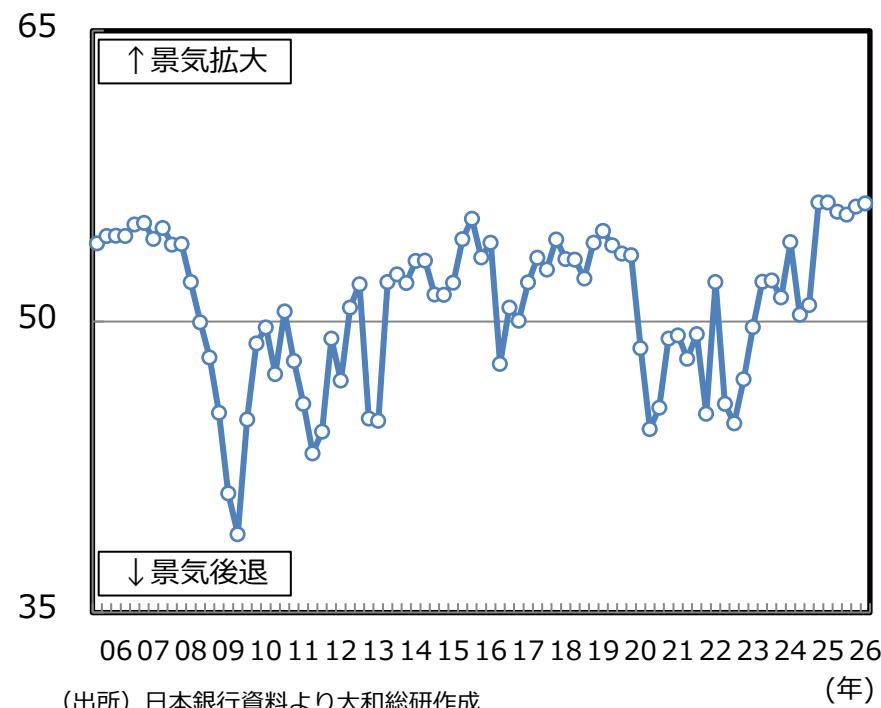
- 大和地域 AI インデックスは、2四半期ぶりに下落した(25年10月:53.6→26年1月:52.9)。
- 企業マインドが改善した一方で、生産や輸出の悪化がインデックスを押し下げた。
- 完成車メーカーが生産の一部を米国に移管したため、生産が輸送機械で悪化。輸出も中国向けの一部で悪化した。



東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2四半期連続で上昇した(25年10月:55.9→26年1月:56.1)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなつたこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまつた。

大和地域 AI インデックスの推移



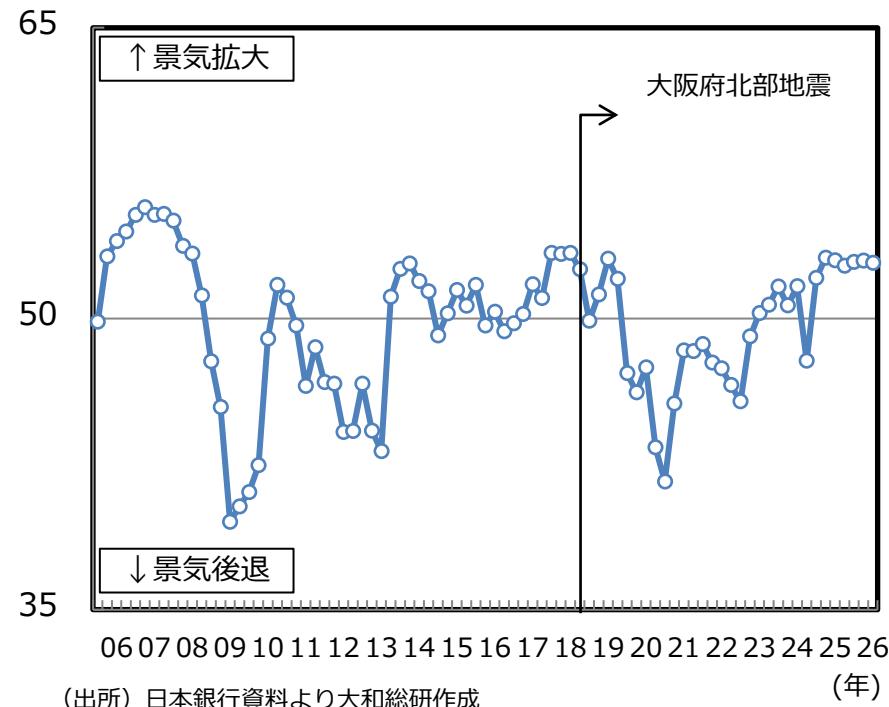
さくらレポートにおける分野別の判断

| 25年10月 | 26年1月 |
|------------|------------|
| 【総括判断】 | → |
| 緩やかに回復している | 緩やかに回復している |
| 【企業の業況感】 | → |
| 改善している | 改善している |
| 【雇用・所得情勢】 | → |
| 緩やかに改善している | 緩やかに改善している |

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3四半期ぶりに下落した(25年10月:53.0→26年1月:52.9)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな低下にとどまった。

大和地域 AI インデックスの推移

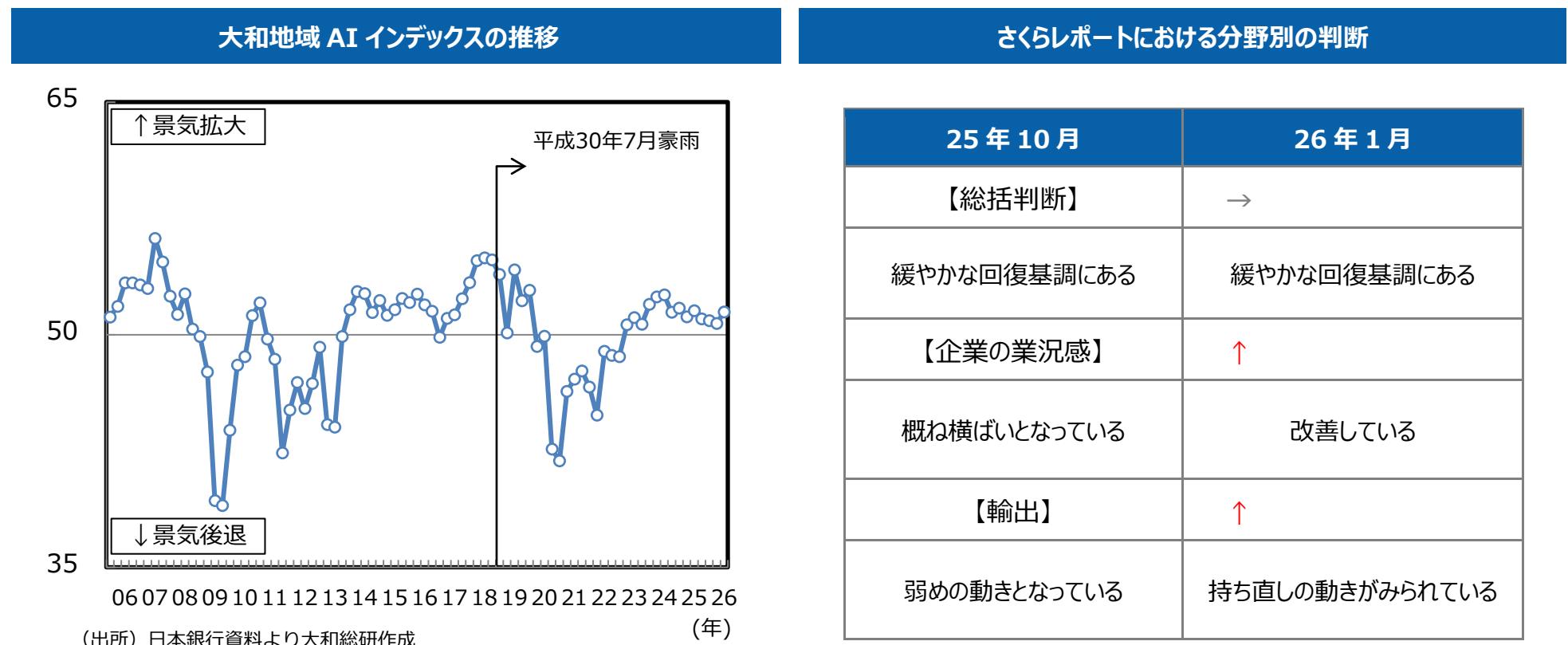


さくらレポートにおける分野別の判断

| 25年10月 | 26年1月 |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 【総括判断】 | → |
| 一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している | 一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している |
| 【企業の業況感】 | → |
| 良好な水準を維持している | 良好な水準を維持している |
| 【生産】 | → |
| 横ばい圏内で推移している | 横ばい圏内で推移している |

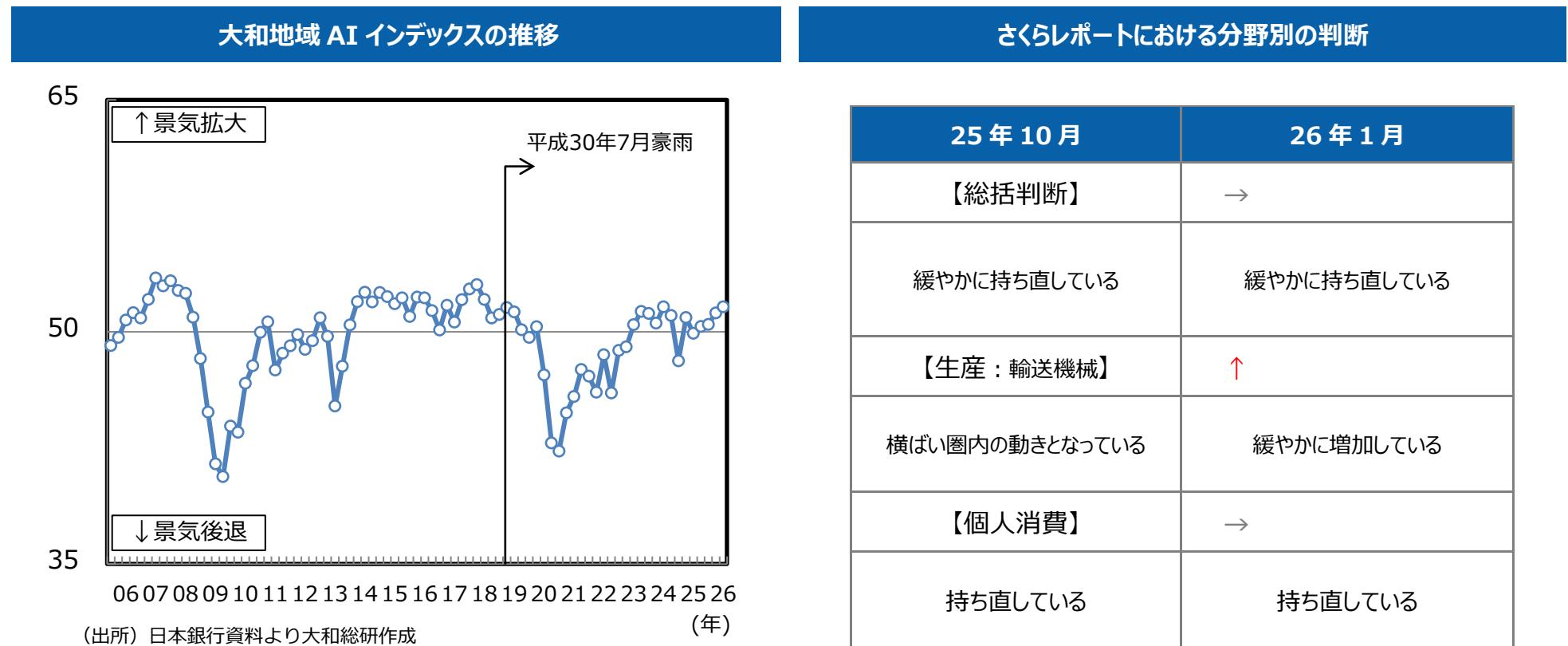
中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した(25 年 10 月:50.7→26 年 1 月:51.5)。
- 生産が悪化したものの、企業マインドや輸出などの改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は、製造コスト上昇分の価格転嫁が競争の激しい海外向けは進んでおらず、汎用・生産用・業務用機械で悪化した。一方、企業マインドは自動車などで改善、輸出は米国の通商政策の影響は限定的で、自動車関連が改善した。



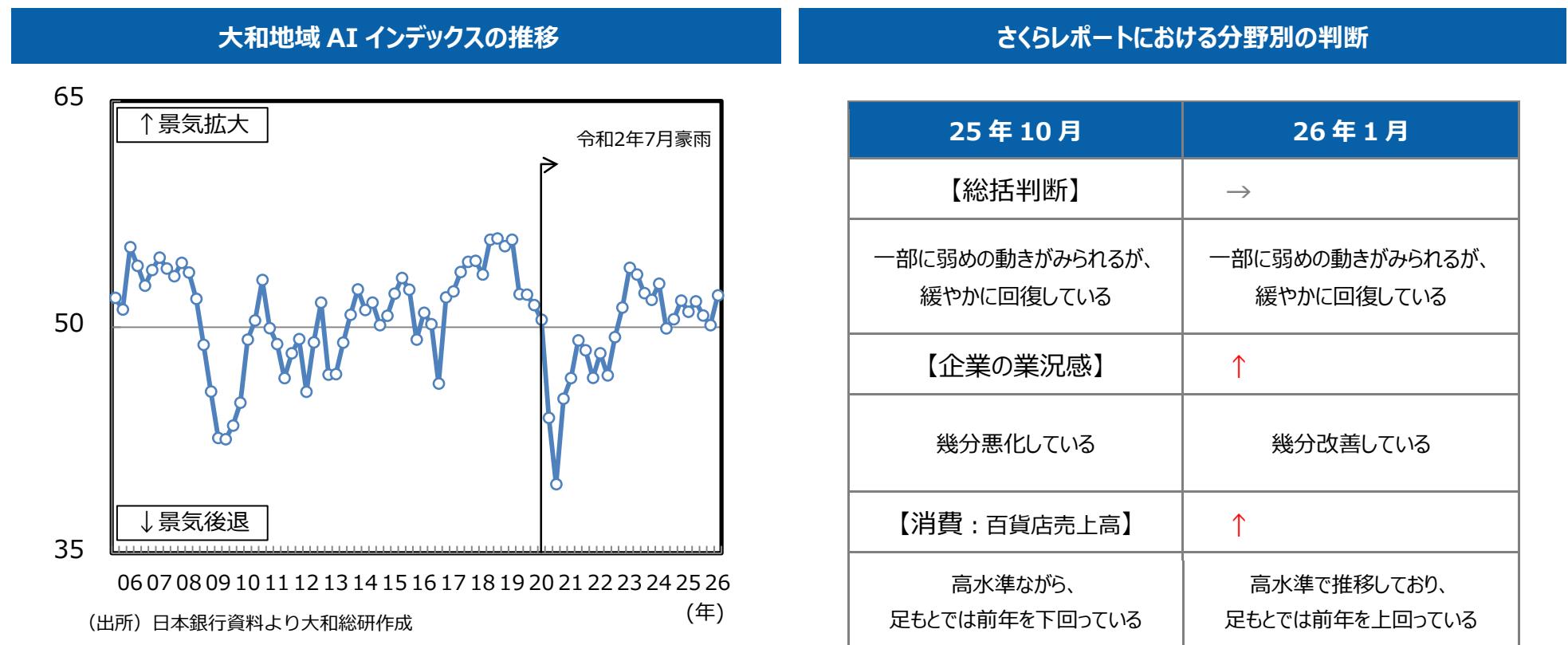
四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した(25 年 10 月:51.2→26 年 1 月:51.6)。
- 生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は輸送機械や紙・パルプ、データセンターへの投資拡大の影響を受けて、汎用・生産用機械が改善した。



九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(25 年 10 月:50.1→26 年 1 月:52.1)。
- 企業マインドや消費、輸出などの改善を受けてインデックスは上昇した。
- 企業マインドは鉄鋼などで改善が顕著。消費も株高の効果もあり百貨店で富裕層による高額消費が堅調。輸出は米国の通商政策の影響は限定的で、電気機械が改善した。



本レポートについて

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが我が国の大変な課題となっている。**地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要となる。**
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した
「大和地域 AI(地域愛)インデックス※」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握することにより、各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をより的確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。本レポートは、2026 年 1 月 8 日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

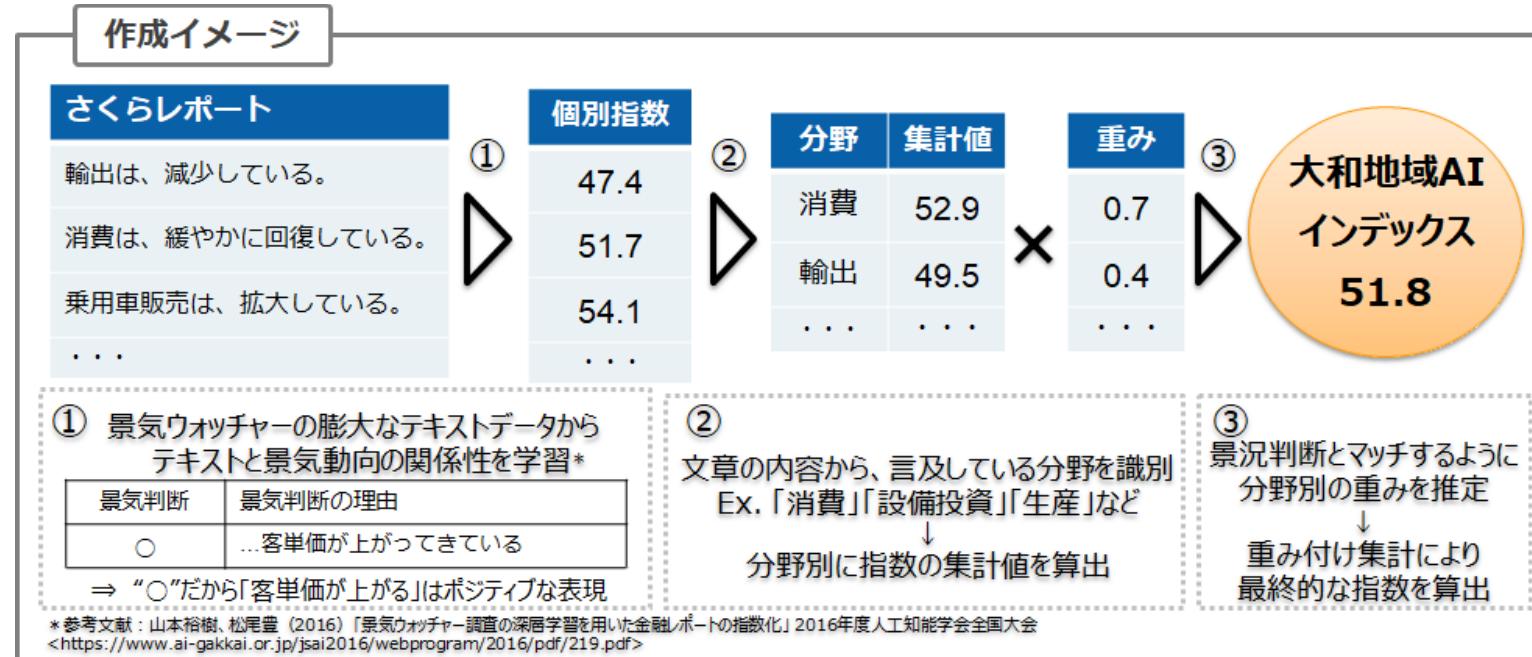
→ 地域別の景況感を AI モデルで算出した指標。

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→ 日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」のテキストデータを、AI モデルで指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、テキストと景気動向の関係性を学習。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

| 日本銀行基準における地域区分 | |
|----------------|--|
| 北海道 | 北海道 |
| 東北 | 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 |
| 北陸 | 富山県、石川県、福井県 |
| 関東甲信越 | 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県 |
| 東海 | 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 |
| 近畿 | 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 |
| 中国 | 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 |
| 四国 | 徳島県、香川県、愛媛県、高知県 |
| 九州・沖縄 | 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 |

(出所) 日本銀行より大和総研作成